

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200248		
法人名	社会福祉法人 和福祉会		
事業所名	グループホーム庄の里「なごみの家」やすらぎ		
所在地	倉敷市西尾11-1		
自己評価作成日	平成23年2月5日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390200248&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13番1号		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気作りと、ご入居者個々の生活を大切にしています。挨拶、笑顔、やさしさ、又サービス計画に、「心を元気にする」メニューを取り入れ、その方の生活を心をこめて支援する事を、施設理念・運営の基本としています。皆で毎日過ごすフロアは、木を基調とし、天窓を設けて、温かみのある空間作りをしています。入居者様が、住みなれた地域で生活することを、援助しており、食材や美容院等は、近隣の商業施設を利用しています。ご家族の希望により、外出、外泊等も行うなど家族の絆を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このグループホームの理念の冒頭に「心を元気にする」とある。認知症の人と接することに一番大切なことは、認知症の人一人一人の人間である。常に同じ目線で向き合うこと。認知症の人の本心を知ろうとする気持で、愛情を持って関心(感性)を持つ事だと私は常に思っている。このホームの考えに共感を持った。そして、このホームの管理者は、利用者一人ひとりの「その人らしい生活」と言うモットーで、利用者や家族が、このホームに入って良かったと思ってもらえる生活をさせてあげたい。それが実現できるように職員がそれぞれに向く仕事をしてもらいたいと考えている。ホームを設立して4年目を迎えているが、運営やケアマネージメントは充実しており、利用者の様子が良く理解できる。この中から利用者の本心を知る術を身につけてもらえば鬼に金棒である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、全体会議等の時に、再確認している。	「その人らしい生活」を重点に、利用者が「ここに来てよかった」と思ってもらえるように、個々の要望に対応する努力をしている。また、明るい家庭的なホームを目指し、職員が楽しく働ける環境作りにも努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑仕事や散歩の時に、近所の方と挨拶や世間話をしている。近所の方がボランティアに来ていただいたり、花を植えたりしていただいている。	代表者や職員の地元であり、地域とのつながりは多い。近くの方がカラオケに来たり、田畑で苗や花をくれたりすることがよくある。演奏などのボランティアもある。法人の祭りには地域の人が集まり、利用者も楽しむ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、なごみの家を知っていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、「なごみの家」の活動状況や様子を伝え、様々な助言をいただいている。避難訓練にも参加していただいた。	運営推進会議は家族・入居者・民生委員・包括センター・医師などが参加して、2ヶ月に1回開催している。ホームの状況報告をし、参加者から情報や意見をもらい協力関係を築いている。消防関係者の話しも聞いた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で民生委員・土木委員・地域包括支援センターの方に参加していただき、事業所の取り組み等を伝えている。	民生委員や地域包括支援センター等を運営推進会議に招き、ホームの状況を伝えている。今後は市の職員も招きたい。毎月1回市の相談員が訪問するのを利用者は楽しみにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束について勉強会を行なっている。またマニュアルを作成し、事業所内にいつでも観覧できるように置いている。	法人の研修会は毎月あり、身体拘束をしないケアに努めている。利用者の転倒防止など、安全のために、居室内光センサーの利用やドアやベッド柵に鈴をつけたりしている。家族の要望で徘徊防止の施錠などの対策はある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束について勉強会を行なっている。また高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも観覧できるように置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人・中途研修・施設内研修で権利擁護等について勉強会を行なっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、納得していただいた上で署名を行っていただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見を述べやすいように、玄関に意見箱を設置している。毎月連絡表を家族に送り意見、要望を聞くようにしている。	家族へは担当職員が入居者の様子を「連絡表」で知らせ、家族からは面会時などに、個人的要望や介護計画への要望などがある。運営推進会議参加家族などから感謝の言葉はあるが、今の所運営への意見は出ていない。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議に理事長・管理者は参加し、職員の意見や要望、質問に答え反映させている。	毎月1回ホームの全体会議とリーダー会議を代表者たちも参加して行い、運営について問題点などを職員間で話し合っている。法人全体での責任者会議もあり、職員の活動や要望の報告などを行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々個人目標を立て、その達成度を賞与に反映させている。また、勤務態度も賞与に反映されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受け、学んだことを管理者や職員にいきたものになるように指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や外部との交流の場に参加させ、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入居者の情報を職員に把握させている。環境(場所や人間)が変わったので、コミュニケーションの場を増やし、馴染みの関係になるように尽くしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等を伺い、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所時に家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等を伺い、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、行なっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場に立った考え方、ケアを行うように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にす為、毎月家族に入居者の様子を手紙で伝え、行事には参加を呼びかけたり、入居者から要望があれば、家族に電話をかけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達が訪問に来られ、交流を図れる場を設けている。	地元の人が多く、買物など出かけるのも馴染みの場所が多い。また友人が来訪したり、友人宅に食事に招かれたりする人もある。入居時ホームに馴染むためには、席や食べ物に配慮し、職員が仲間作りの手助けをする。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、フロアでの席の場所を配慮したり、職員が間に入るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、職員と入居者と面会に行き、交流を図っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや生活歴などから、本人の意向に合ったものを知り、畑仕事、生花、外泊、外出等を実行している。	計画作成時には本人の希望を聞き、話しのできる人からはゆっくり思いを聞いている。その人がどのような人かの情報を職員間で共有し、喜ぶことは何かを一緒に考えて、思いや希望を受け止める努力をしている。	帰宅願望など精神不安のある利用に対しては、利用者とともに深く話し、言葉の中に隠された本当の思いを探り出してほしい。職員間で話し合っ追求してほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、入所時の事前情報、入居者との、コミュニケーションを通して把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の立場に立った考え方、ケアを行うように努めている。言葉、行動を理解し、記録に残し、職員の情報の共有を行なっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で気づきを出し合い、介護計画に反映させている。モニタリングにより、介護計画の見直しを行い、より良い生活が送れるように支援し、記録に残し活用している。	フェイスシートなど情報を十分記録し、それを生かした計画を立て、支援の実施状況を検証しており、記録や計画作成の行程はすばらしい。記録は重複を避け、簡素化をしても、本音を受け止めた具体的計画を立てたい。	ケアチェック表をさらに深く分析し、利用者の行動・発言が意味する本音を受け止めた、具体的な対応策を介護計画に取り上げて、段階的にレベルアップしていきたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を活用し、日々の体調や生活の変化を見逃さず、介護につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の介護のニーズを聞き、カンファレンスにより、そのニーズに添えるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の外出する機会を増やし、地域資源を利用し、入居者と地域の方との交流を大切にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応の強力病院と契約している。体調不良時等すぐに連絡がとれて、入居者やご家族、職員も安心できている。ご本人、ご家族の希望により、かかりつけ医を選択して頂いている。	提携医が2週間に1回往診している。ほとんどの利用者が見てもらっている。他の科など個人のかかりつけ医への受診は家族に同行してもらおう。歯科医も訪問診療している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故があった際には、必ず看護師に連絡し、指示を仰いでいる。状態によっては、看護師から協力病院に連絡し、往診を依頼している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が、入院した時には面会に行き、症状や様子について、病院関係者、家族から、情報収集を行なう。退院前には、カンファレンスを行い、ホームで対応できるように体制を整えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取り指針に沿って家族に説明を行い、随時体調の管理を行なう。体調に変化がある時は、主治医、職員、家族で話し合いをして、情報を共有する事にしている。	入居時には重度化や看取りの指針を説明している。提携医は看取りに対応する方針ではあるが、ホームで出来る限度もあり、家族の要望や協力体制などを随時話し合い、記録に残しながら対応を決めていく。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時や施設内研修で、事故発生時の対応については、研修を行なっている。又、事務室内にマニュアルを常備し、職員が何時でも閲覧できる状態にしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼・夜想定、避難・誘導訓練、水消火器による消火訓練を実施している。消防署、防災会社の方にも協力して頂き通報訓練も行っている。その際は、運営推進会議のメンバーにも参加して頂き協力を得ている。(21・目標計画達成)	運営推進会議で消防関係者に参加してもらって指導を受けたり、メンバーが避難訓練に参加したりするなど、災害時に地域の協力が得られるよう努めている。通報装置は設置済み。スプリンクラーは年度内に設置予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、お一人お一人に合わせたケアを行い、プライバシーにも十分配慮している。	最も気を使っているのは排泄と入浴である。トイレ介助のときドアをしめること、必要なときは声をかけて中に入ること、入浴時も様子を見に入るときは声をかけることなどを行っている。利用者間の尊厳維持にも配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の日常生活を大切に、入居者に寄り添い、自己決定できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重できるよう訴えは傾聴し、居場所を見つげられるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が好む服を着ていただいている。組み合わせや、薄着である時などは、自尊心を傷つけない言葉がけを行なうなどの対応を心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際には、入居者が食べたい料理をお聞きしたり、一緒に買い物に行ったときに、食べたいものがあれば購入している。嫌いな献立がある方は、別献立にするなど工夫している。	できるだけ地元で食材を買い内部で調理することを方針としており、調理専門の職員と利用者も手伝って料理する。時には外食もするが、花見にも弁当を作って行ったこともある。職員も介助しながら一緒に食べる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつの際には、水分・汁物を飲んでいただくよう言葉がけをし、食事量・1日の水分摂取量をチェックしている。又、その方に合った食事形態で対応させていただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔ケアを行い、自力で出来る方にはご自分で口腔ケアを行って頂き、職員が磨き上げを行なっている。協力歯科医、歯科衛生士に食事形態や口腔ケア方法について指導を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオシメを使用している入居者を、昼間定時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を維持できるように努めている。	夜間のみポータブルやおむつ使用の人もあるが、昼間は全員トイレで排泄している。排泄を介助したり声かけして促す人と、プライドに配慮して本人に任せて離れて見守る人がある。おむつから改善された例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を摂取して頂いたり、排便が2・3日見られないときは、運動をして頂いたり、冷たい牛乳を飲んでいただくなどして、出来る限り下剤に頼らないようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回入浴日を決めているが、入居者の希望があれば、入浴日以外にも入浴して頂いている。入浴は昼間に行なっているが、夜間欲を希望されるご入居者には、夜間入浴して頂いている。	2日に1回の入浴とし、入浴表を掲示している。希望者は毎日入ったり、夜でも好きな時間に入れる。順番にはこだわらず、好きなときゆっくり時間をかけて入ることが出来る。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせた対応を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されれば、薬の名前・用法についてその都度理解・確認している。新しい薬が処方されたときは、記録を細かくとり、主治医・ご家族に状態等を伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の入居者が多いので、家事作業は好んで行なわれている。手芸や生花、貼り絵等を職員と一緒に作り、日々の楽しみを想像している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や外食で個別対応し、法事への付き添い外出支援を行なっている。	花見や初詣などユニット毎に車で出かけている。花見や誕生会には家族にも呼びかけている。気候の良い時には近くの公園への散歩や畑仕事もする。地域の祭りや運動会への参加、法人の祭りへの参加も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の紛失・トラブルが起きないように、入居者に合わせた支援を行なっている。職員と一緒に外出し、好きなものを購入されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から、ご家族や知人に電話をかけたいとの申し出があれば、かけていただく様に行っている。ご家族との手紙のやり取りを行なっている入居者もいらっしゃいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものや、皆で作成したものを展示している。玄関には、入居者が生けられた、生花を展示していることもある。室内にもプランタンを置き、育てる楽しみ、季節を感じる事が出来るように工夫している。(21・目標達成)	明るいきりびんぐでテレビを楽しんだり、ソファでゆっくり寛いだりできる。壁には写真や利用者の作品・職員が書いた詩等を貼り、利用者が楽しんでいる。庭の畑も近所の人との協力で野菜や花を育てられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングの席の場所を配慮し、気の合う入居者と、過ごせるようにしている。寒がりな入居者には、日が良くあたるソファの場所や、こたつをすすめている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた馴染みのあるものを、持って来て頂くようにしている。認知症の症状によっては、席の配置等の工夫を行なっている。	利用者によってそれぞれの道具や家具を持ち込んでいる。洗面台があり便利。自分の作品や家族の写真を貼っていたり、アルバムや本もある。机やテレビ・厨子など持ち込み、自分の生活を築いている人もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常、一緒に料理や洗濯等行っている。体力に合わせて工夫している。		